

# 「小○の旗」の三閉伊一揆170周年

## 同盟の公開学習会に多数参加



ことしは嘉永6年＝1853年に「小○の旗」を掲げて勝利した三閉伊一揆から170周年、総頭人リーダーの畠山多助の没後150周年の節目にあたります。このため南部三閉伊一揆を語る会（会長小松原進）では多助の命日である5月27日、盛岡市の本誓寺で墓前祭を、会場を移して語る会をもちました。

続いて同盟では岩手が誇るべき民衆のたたかいである三閉伊一揆を、若い会員が全く知らないことから、みんなでもっと学ぼうと、6月4日、中央公民館で、牛山靖夫会長を講師に公開学習会を企画しました。牛山会長は一揆を語る会の事務局長を20年、田野畑・岩泉への一揆ツアーのガイドを33回という「一揆大好き人間」の一人です。

岩泉への一揆ツアーのガイドを33回といつても、労連や復興一揆で使われている「小○の旗」の「小○」は多助の子孫である畠山吉郎さんに牛山会長がお願いして書いてもらつたものです。

学習会で牛山会長は一揆の特徴を、現在の私たちに重ねて、次のことを強調しました。

ことは嘉永6年＝1853年に「小○の旗」を掲げて勝利した三閉伊一揆から170周年、総頭人リーダーの畠山多助の没後150周年の節目にあたります。このため南部三閉伊一揆を語る会（会長小松原進）では多助の命日である5月27日、盛岡市の本誓寺で墓前祭を、会場を移して語る会をもちました。



所行発  
治安維持法犠牲者  
要求同盟  
〒113-0034東京都文京区  
湯島2-4-2全労連会館  
国賠同盟岩手県本部  
〒020-0013盛岡市愛宕町  
17-4 牛山靖夫方  
T/F 019-623-8648

▼女性たちの三閉伊一揆  
▼盛岡に来た山懸こと山本懸藏と堺利彦が書いた啄木の歌の扁額  
▼この人にこの歌あり ①佐藤欣治と  
亀戸事件  
▼連載最終回 治安維持法成立から100年  
▼女性部学習会の報告

### 一寸一言

「未来は青年のもの！？」  
▼統一地方選の政策に「子育て3つのゼロ」が掲げられていました。その訴えを聞きながら思つた。子育ての前に、結婚できな  
い、子どもをつくれない、仕事がな  
い、給料安いと子育てにたどり着け  
ないという青年・若者たちの現実も  
喫緊の課題ではないのか？▼八幡平  
市の知人から昨年1年間の出生数が  
100人を切つたと聞いた。これで  
20年後30年後の未来が展望でき  
るのか？▼政府の異次元の少子化対  
策も全く現実性がなく言葉だけが空  
回りをしている。青年・若者が将来  
に希望を見出せない現実、こんな  
日本に誰がしたといいたい。生涯雇  
用で給料は毎年上がるものと思つて  
いた。リストラ、高学費、派遣、な  
どといつて人生が見通せなくなつた。  
何といつても儲け最優先の資本主義  
とアメリカのいいなりの自民党政治  
の大罪である▼総選挙を前に青年・  
若者が希望を持てる日本にするため  
に大企業や富裕層のためではない私  
たちのための政治を訴えたい。（D）



参加者からの感想には、20代の青年は「メーデーで初めて小〇の旗を見た時、何の旗だろう、どういう人たちだろう」と思つたが、今度はよく分かつた。民主団体の役員は

一揆のよびかけは「村方中、町方中、浦方中、総御百姓中」に出され、「諸業の民」を総結集しています。沿岸の人口6万人のうち1万5千人、25%が一揆の大行進大集会に参加したのです。

このように「小〇（困ル）の旗」は三閉伊一揆の旗印であり、「一揆とは心を一つに結ぶこと」でした。岩手の社会運動の潮流として、一揆の心に学び、私たちの活動の力＝エネルギーにしていきました。

この後一揆のあらましについて、出立から順を追つて解説し、勝利の証である参加者を処罰しないという御墨付（御奉書）をかちとるまでを詳しく語りました。

## ①要求がすばらしいこと

「悪い殿様を替えてほしい（藩主の交替）」と「御用金・重税は迷惑」というのが要求の柱でした。今なら「次々と悪政を強行する岸田政権はやめてほしい」「大軍拡と大増税は反対」となります。

## ②民衆を総結集したこと

一揆のよびかけは「村方中、町方中、浦方中、総御百姓中」に出され、「諸業の民」を総結集しています。沿岸の人口6万人のうち1万5千人、25%が一揆の大行進大集会に参加したのです。

学習会には40人が参加（うち同盟会員が18人）、女性は15人（同盟会員6人）でした。また同盟に一人が入会し、『新しき明日をめざして』を2部普及できました。

\* 註1 学習会に女性の参加が多かったので、別稿に「女性たちの三閉伊一揆を補充します。

\* 註2 三閉伊一揆の学習会を希望される方は小規模でも出前講話をします。事務局又は牛山会長にご連絡下さい。

# 女性たちの三閉伊一揆

一揆にも「作法」があつて、一般には女性の参加はないのだという。だが三閉伊一揆の特徴の一つは、女性も参加し、女性の要求を出していることだ。先般の学習会には女性の参加が多かつたので「女性たちの三閉伊一揆」を補充する。

## ①女性の参加 A

一揆に出立の指令が届くと、各村々では誰が参加するか人選の準備にかかつた。「女が主の家でも残らず引き立てた」村もあれば、「女軒」は参加しないことを許した村もあつた。病人

「恥ずかしながら一揆は暴動だと思っていた。勉強します」。

女性の一人は「楽しいお話をしました。こんな学習会をまた開いてください」。一揆ツアーに参加したことのある人は「レジメに添つて一揆の全体をポイントがわかりやすく語られた。参加者はみんな一揆を語れる人になつたのでは」などとありました。

隣の秋田県同盟からも参加があり、「若い方や女性の方も多くの明るくて楽しい、良い学習会でした」と感想を送ってくれました。

学習会には40人が参加（うち同盟会員が18人）、女性は15人（同盟会員6人）でした。また同盟に一人が入会し、『新しき明日をめざして』を2部普及できました。

\* 註1 学習会に女性の参加が多かったので、別稿に「女性たちの三閉伊一揆を補充します。

\* 註2 三閉伊一揆の学習会を希望される方は小規模でも出前講話をします。事務局又は牛山会長にご連絡下さい。

がいる家、出稼ぎに出ている家も除かれた。女性がすんで参加する家もあり、気仙沼の桶屋の記録には「強訴企てられ頭取女御座候と相聞き申し候」と女性の参加が噂になるほどだった。

## ②女性の参加B

一揆には本隊に参加した女性たちだけでなく、見送りの人、付き添いの人たちも同道した。記録に「老若男女打ち交じり、女は幼児を背負い或いは抱き押しに入る」「極老の者又は幼若女稚子は本陣より下知して山田より悉く帰村す」とある。

## ③女性の要求

要求に「在々青葉染の御差し留めに相成り一統迷惑仕り候間先年之通御みのかし成し下され度き候」とある。青葉染めは藍染めのこと。自分たちの衣類を染めるのは見逃してほしいという要求である。

また「真綿すべて御買物にて迷惑仕り候」とある。藩では養蚕をするため全ての繭を買上げていくが、自家用に使える真綿をつくるための屑繭は残してほしいという要求である。これらは暮らしに根ざした女性から出た要求だろう。

## ④万六二女吉田タキのこと



宮古市の常安寺に「切牛  
佐々木万六二女吉田タキ」と刻まれた比翼塚（夫婦の墓）がある。女性が墓に自分の生まれ（出自）を記すのは異例のことだ。万六とは弘化の三閉伊一揆で捕らえられて処刑された総頭人リーダーである。実名は

万六だが弥五兵衛と名乗っていたので、記録には「弥五兵衛こと万六」とある。墓には父を誇りに思う娘の特別の思いがこめられている。このタキの娘が児童文学作家で『また来た万六』の著者吉田タキノである。

## 盛岡に来た山懸こと山本懸蔵と

「不屈」5月号に『昭和縣政覺書』と5人の新聞記者たちのことを書いた。

その中で「未遂に終わった飛鳥（アスカ）の大暴動事件のこと」と評議会の山本懸蔵がオルグに来たらしいこと、山本懸蔵が持参した堺利彦が揮毫した啄木の歌の扁額が存在することにふれた。これらの点は20年前の「不屈」で取り上げたことではあるが、その後の20年間に入会した会員も多いので改めて紹介する。

## 堺利彦が書いた啄木の歌の扁額

『昭和縣政覺書』（以下『覚書』という）には米内一郎から記者が聞いた話として次のように載っている。

（大正14年山田線工事は原敬の面目にかけて強行工事が行われた。工夫（こうぶ）の待遇は非常に悪く北海道開拓史を血で彩つたタコ部屋の生活が強いられた。その上難工事を急いだために死人は絶えず、工夫の不満は各飯場に充満していた。この時、

## 未遂に終わった飛鳥の大暴動



米内一郎 (よないいちろう)

日本労働組合全国評議会は大暴動計画を指令。変名したオルグが米内を訪ね両名は山に潜入した。（引用者註）区界峠の手前、飛鳥トンネル工事の現場で有名な東京の共同印刷の大争議、浜松の楽器争議は評議会の指導で行われ大勝した後であつたから、評議会はこの勢いで全国的に組織化しようとした。飛鳥大暴動の指令もその一つであつたろうと米内はみている。

米内らは飯場の不平をあおり、1週間各飯場を煽動して歩き共鳴を得、5人の飯場頭さえ養成した。ダイナマイト工場を奪い、火を放つて山を花火のお祭りにして全く破壊する計画であつた。決行はいよいよ明日に迫つた。米内の計画は着々進んで早や指令一本で大暴動が行われるばかりであつた。然るにその前夜、一人の飯場頭が裏切つて大暴動の計画が工事主側に伝わつた。山は大動搖を來した。米内らは計画を強行すべく各飯場を説き回つたが時既に遅く工事主側の手が回つて総崩れの情勢となつた。東京のオルグは宮古へ、米内は盛岡へ、それぞれ夜陰に乗じて徒步で逃亡した。米内はその後さらに東京に逃亡した。1年間木賃宿を転々し遂に捕らわれた。

①米内一郎とは、ブリキ職人で、社会主義思想団体の牧民会に参加し、啄木会をつくつて活動。無産政党の組織促進をめざす政治研究会盛岡支部が結成されると役員となり、その後は労働農民党、岩手無産党、社会大衆党などで活動した。戦後は日本社会党の結成に参加して後に委員長もつとめた人である。

②『覚書』は「未遂」に終わったものを「大暴動事件」とはい。

な話だが、米内が記者にそう語つたものか、記者が話を大きくして記事を書いたものか、不明である。

大正14年（1924年）も15年も岩手日報には該当する記事はない。また「米内一郎追悼」の略年表にも、米内の自伝的小説「板金工」にも飛鳥トンネル争議のことは触れられていない。

まさに幻の争議である。

③それにしても『覚書』が書いた大暴動計画は大げさである。「ダイナマイト工場を奪い」「山を花火のお祭りにして破壊する計画」だとある。こんなことを評議会が指導する訳がない。

④評議会について『覚書』には「日本労働組合全国評議会」とあるが、正しくは「全国」はない。3・15弾圧で評議会が解散を命じられた後、非合法で結成された「日本労働組合全国協議会」と混同している。

また評議会が指導した共同印刷や浜松の日本楽器の争議は、大正15年のことである。飛鳥トンネルの争議が「大正14年」のことなら話が合わない。

⑤さらに評議会の「変名したオルグ」となつていて、何という変名なのか、本名はなになのか、明らかにされていない。

戦後のことだが、米内は日本共産党の柳館与吉に「山本懸藏がオルグに来た」と話している。『覚書』の記者にも、当然米内は変名ではなく本名を話していただろう。

⑥飛鳥トンネルの工事現場は「タコ部屋の生活」で「死人が絶えない」状況だったので、朝鮮人労働者たちの「不満が充満していた」ことは記事のとおりだらう。しかし労働者をどこまで組織できたのか、記事からは分からぬ。

結局、いつ、何があつたのか、わからないということになる。

けれども「変名」したオルグが山本懸藏となれば興味は尽きない。

# 盛岡に来た山懸」と山本懸蔵

① 山本懸蔵といえば、

戦前の日本共産党の  
一人であり、1925年  
5月の大勝14年5月

に結成された労働組  
合の全国組織、日本

労働組合評議会の幹  
部として知られています。

② 1928年昭和2年の普通選挙法による初の総選挙では、  
共産党は非合法であったので労働農民党から北海道1区に立候  
補した。小林多喜二が応援し選挙戦のことを小説「東俱知安行」  
に書いた。映画「伊藤千代子の生涯」にも、千代子が山懸を支  
援したことが描かれている。

このとき、岩手2区では泉国三郎が立候補した。宮沢賢治が  
支援した選挙だが2千円の保証金と供託金が準備できなくて、  
北海道へ向かう山懸と汽車の中で談判し、労農党本部から千円  
を借りていている。この話は別の機会に紹介したい。(『新しき明  
日をめざして』の横田忠夫の項、柴田義男の項にもある)。

③その後山懸はソ連に渡り、コミニンテルン世界共産主義運動  
の統一的な国際組織で活動し、モスクワで客死したとされています。  
ところがソ連の崩壊によって、山懸は1937年昭和12年に  
スターリンによって根拠のない容疑で逮捕され、1939年に  
銃殺されていたこと。そして1956年にソ連最高軍事法廷  
の決定で名誉回復したことなどが明らかになった。

④では、山懸はいつ、なんのために岩手に来たのだろうか。大  
正14年の山懸の行動を調べてみると、9月に評議会から北海道



山本懸蔵

へオルグに派遣されている(『山本懸蔵衆』略年表)。北海道  
では11月に北海道地方評議会が結成されている、そして争議の  
指導と評議会の組織化に奮闘している。

⑤もう一つ無産政党(労働農民党)の組織をめざして来県した  
のかもしれない。この点では大正14年の「秋」青森県では黒石  
で山懸を迎へて無産政党評議会を開いている(『わが地方の日  
本共産党史』)。

⑥同じ頃、岩手では、10月4日、政治研究会盛岡支部、盛岡労  
働会、盛岡印刷労の組合3団体で無産政党組織準備岩手県協議  
会を発足させている。協議会は11月、12月にも開かれ、無産青  
年同盟、政治研究会山田支部も参加している(岩手日報)。

⑦12月8日には盛岡市の杜陵館に福島、秋田、宮城、青森、岩  
手の代表が集まり、北日本無産者団体連絡委員会を結成して、  
全国単一無産政党の実現促進を決議している。

こうして大正15年3月に労働農民党(委員長杉山元次郎)が  
結成されると、同月に岩手でも同党岩手県支部設置準備会が發  
足する。そして10月30日盛岡支部(委員長小森智円)10月31日  
に同党同党碑和支部(同泉国三郎)が結成される。

⑧このように山懸は評議会のオルグとして、労働農民党組織準  
備のため北海道・東北に来ており、その時、岩手にきたかもしれない。  
そこで飛鳥トンネルのことを知り、現場に向かつたの  
かもしけれない。

⑨このままだと飛鳥トンネルの争議も山懸の来県も「伝説」で  
終わりかねない。ところが、山懸が持参した堺利彦が揮毫した  
啄木の歌の扁額が1992年10月に発見されたのである。これ  
により「伝説」ではなく、実際にあつた出来事となつた。

（次回へ続く）

# この人にこの歌あり

「犠牲者」を語り継ぐために

同盟の「同盟ならではの活動」の一つは、治安維持法犠牲者の「不屈のたたかいと抵抗の歴史」を学び、語りつぐことです。とはいえ犠牲者を顕彰し、語りつぐ活動は容易ではありません。何故なら、私たちに身近な岩手の犠牲者は「無名」の人たちだからです。小林多喜二や山本宣治、伊藤千代子や鶴彬のように、映画や小説、いろいろな出版物があるわけではありません。多くの人たちは名前さえ知られていないのです。

岩手では2012年に九戸村の松浦繁蔵さんが102歳で亡くなり、存命の犠牲者はいなくなりました。初代の県本部会長の柳館与吉さんも犠牲者でしたが、亡くなつたのは1995年でした。28年前のことです。犠牲者だけでなく、犠牲者と交流や面識があつた人たちも次々に亡くなっています。

そうなると中島みゆきの歌のように「♪語りつぐ人もなく、吹きすさぶ風の中を、紛れ散らばる星の名は、わすれられてもー」となります。

けれども忘れる訳にはいきません。忘れてならない歴史はたくさんあります。戦争のこと、沖縄・広島・長崎のこと、大地震大津波のこと・・・、同じように治安維持法と特高警察による弾圧の歴史と、その犠牲者たちの不屈の歴史を忘れてはならないと思います。そのためには、誰かが語りつぐことが必要です。それが私たち同盟の務めではないでしょうか。

同盟では犠牲者を名簿化して、『新しき明日をめざして』（以

下テキストという）にまとめました。これを活用して、繰り返し「不屈」で話題にすることが求められます。  
そこで、歌や詩に因んで10人の犠牲者についてシリーズで語つてみたいと思います。（Q）

●この人にこの歌あり①

**佐藤欣治と亀戸事件**

♪ああ革命は近づけり  
かいめつ近し資本主義

表題は「南葛労働者の歌」の歌い出しの部分である。こ

の後に「♪わが南葛の同志らは、熱と力もてきたえ行く」と続く。

1922年10月、東京府下南葛飾区亀戸町を中心に、渡辺政之輔らによつて南葛労働

会の名で労働組合がつくられた。その戦闘的活動は広く知られ、「南葛魂」と呼ばれた。亀戸は日本の労働運動発祥の地であり、拠点であった。プロレタリア文学を志し、上京した小林多喜二が真っ先に訪ねたのは亀戸であった。

1923年9月1日に発生した関東大震災はマグニチュード7.9、震度6。死者・行方不明者12万以上という大災害となつた。その混乱の中で戒厳令が布告され、天皇制政府は「朝鮮人や社会主義者が井戸に毒をながした」「暴動を起こした」とデマ



佐藤欣治君

宣伝をした。軍隊や警察、そしてデマに惑わされた「自警団」によって、6000人以上の在日朝鮮人・中国人が虐殺された。無政府主義者の大杉栄・野枝夫妻が甘粕憲兵大尉によって殺害された。

南葛地域では、被災者の救援活動にあたつていた南葛労働会の川合義虎（共産青年同盟初代委員長）ら10人の青年労働者が、亀戸警察署に連行され、習志野騎兵連隊によつて虐殺された。これを亀戸事件という。犠牲者の一人に岩手県人で奥州市江刺田原出身の佐藤欣治（22）がいた。（テキスト24Pの解説編）。

佐藤は自警団によつて亀戸署に引き渡され、天皇の軍隊に殺された。南葛労働会の友人はこう述べている。「佐藤君は上京

して間もない時であり、東北弁丸出しの発音であつたことが拘

引されるきっかけになつただけに不憫でならない」。

「南葛労働者の歌」4番はこうである。

「トやがて勝利の栄光に、紅もゆるバラの花、  
わが南葛の同志らは、赤旗かげ進み行く」。

### 連載 最終回

## 治安維持法成立から100年

### 21世紀を 真に人権と平和の世紀にするために

藤田 廣登

おわりに

日本の進歩と革新の運動の中に治安維持法体制の決着をつける道程が書き込まれる日を実現しなくては、「戦後」は

終わらないのです。そしてこの「任務」は、ひとり治安維持法国賠同盟のみでなく、日本の民主主義を志向する勢力が等しく担わなければならない課題です。

西ドイツの大統領R・ヴァイツェンカーは、1985年5月8日、ドイツ連邦議会で「荒れ野の40年」と題する演説で「ドイツに占領されたすべての国のレジスタンスの犠牲者を思いをはせます。（…）労働者・労働組合のレジスタンス、共産主義者のレジスタンス——これらのレジスタンスの犠牲者を思い浮かべ、敬意を表します。（…）問題は過去を克服する事ではありません。（…）後になつて過去を変えたり、起こらなかつたことに対するわけにはまいりません。しかし過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行為を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです」（翻訳は『新版荒れ野の40年 ヴァイツェンカー大統領ドイツ終戦40周年記念演説』リヒャルト・フォン・ヴァイツェンカー著、永井清彦訳、岩波ブックレットNo.767、2009年による）と述べました。

それにひきかえ戦前・戦中の20年間、わが国を誤った進路に導いた治安維持法体制はきちんと清算されず、今日の日本に負の影を落としているのです。わが国の歴代保守政権の、過去の歴史に向き合わない無反省、歴史認識の逆行性、人権ないがしろの姿勢と闘い、この世紀を真に「人権と平和の花開く世紀」にするために力をつくすことが求められています。

完

（ふじた ひろと 治安維持法国賠同盟中央本部顧問・「治安維持法と現代」編集委員、東京山宣会副会長、労働者教育協会理事。映画・「わが青春つきるとも――伊藤千代子の生涯」製作を支援する全国の事務局）会

## 《女性部学習会の報告》 6月20日（火）6名参加

『治安維持法と現代』2023年春季号NO.45から

\*伊藤千代子と浅野晃

## その「転向」・「非転向」を歴史的文脈の中で考える

同盟滋賀県本部幹事 高田 直樹



①水野成夫（党中央事務局長）の転向⇒浅野晃の転向 1929年

3・15事件=党の敗北

民衆から党は孤立、その原因是党中央幹部の腐敗堕落と「君主制廃止」のスローガン  
→絶対主義天皇制の下での社会主義を目指す日本共産党労働者派（解党派）

②佐野学（党委員長）・鍋山貞親（党中央委員）の転向 1933年（多喜二虐殺後）

無期懲役の判決後、刑務所の「暖かい取り計らい」のもとに転向を構想

両者に共通するのは、「天皇制社会主義」

問われたのは「絶対主義的天皇制」への屈服か、それと闘いぬくか

伊藤千代子は、夫の解党派浅野晃の「転向」上申書を見せられても転向しなかったが、強い衝撃を受け拘禁性精神病を発症し、それが獄中死の引き金となった。

治安警察法により女性は政治集会への参加禁止（1922年認められる）され、政治結社への加入も禁止されていた（戦後まで）。

婦人参政権は戦後の1945年12月にようやく実現した。

「いつも踏みつけられている日本の女には、のし上がって掴む栄達も名誉もなかった」  
塩沢富美子『野呂栄太郎とともに』

千代子の生きた1920年代は、満州事変以降の「総力戦体制」を準備する時代であった。米騒動以降、労働争議・小作争議の高揚、労働組合組織の激増、水平社運動や社会主義運動の展開されると、

日本帝国主義が支配体制の再編し、1925年男子普通選挙と引き換えに治安維持法の成立戦争への総動員体制において、自発性、主体性の重視し主体的な戦争参加を求めた。

天皇の絶対性・神聖性への教化政策として軍人勅諭・教育勅語が大きな役割を果たす。

思想犯に教誨師をつけるなど宗教の果たした役割も見逃せない。

「転向」というのは思想犯を対象に行われた教化政策であった。

「政権交代」を掲げて戦った野党共闘に対し、マスコミまで総動員して共闘つぶしと日本共産党への反攻撃が行われ、同時に「戦争する国づくり」がすすめられている。今の日本社会の現状と千代子の生きた時代がすっかり重なっていると思いました。科学的社会主義と出会ってその未来に確信を持ち、女性の人権も何もなかった時代に信念を貫いた伊藤千代子の生き方を改めて考えさせられます。「ジェンダー平等！」と声をあげられる今の私たちは、自由と人権、平和を求める闘いに自信をもって踏み出さなくてはと思いました。

(文責 田中館安子)



次回女性部学習会 未定 9月県知事・県議選後の予定